

# vivo

## 10&11

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

OCTOBER / NOVEMBER  
2004

### CONTENTS

水戸室内管弦楽団第59回定期演奏会	...1
オペラの花束をあなたへ XVI	.....3
ロジェ・ムロロ ピアノ・リサイタル	.....4
日本のうた セミナー& 茨城の名手・名歌手たち 第15回	.....5
SELF PORTRAIT 中村真由美&佳代	.....6
最近の公演から	.....6,7
インフォメーション	.....8



水戸室内管弦楽団第44回定期演奏会より

## 失われつつある素朴で純粋な歌と舞いを求めて...

11/6(土) 7(日)水戸室内管弦楽団第59回定期演奏会

水戸室内管弦楽団(MCO)第59回定期演奏会は、今年没後100年となるドヴォルジャークに捧げる、指揮者なしの演奏会です。出演者にも、プログラムにも、MCOだからこそ実現できたさまざまな魅力が満載です。

### カール・ライスター登場

演奏会の冒頭に演奏されるのがドヴォルジャーク:セレナード 二短調 作品44です。この曲は、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン3、チェロ、コントラバスというように、木管楽器を中心とする楽器編成の作品なのですが、今回は宮本文昭(オーボエ)などMCOが誇る管楽器奏者に加え、今日活躍するクラリネット奏者のなかでも随一の実力と人気を誇るベルリン・フィルの元首席奏者であるカール・ライスターが参加します。

ライスターは、22歳でベルリン・フィルの首席となり、1993年までその要職を務めました。今日のドイツ・オーストリア系のクラリネットを代表する奏者であり、ドイツ伝統の節度のある落ち着いた響きをベースとしながら、極めて多彩な音色を駆使して聴衆を魅了します。そのような彼の神経の行き届いた音楽性が最もよく発揮されているのは、室内楽の分野です。どちらかといえばマイナーであった木管楽器による室内楽というジャンルをメジャーな地位にまで押し上げたのはライスターの力によるところが大きいのです。MCOのステージには、第24回定期(95年)のモーツァルト:クラリネット協奏曲 K.622 のソリストとして出演して以来の登場となります。MCOの実力に惚れこん

でいるライスターが、今回はアンサンブルの一員として参加するのですから、まさにライスターの室内楽における鋭敏なセンスが大いに発揮される演奏となるのではないかと思います。なお、彼はバルトーク作品にもオーケストラの一員として登場します。

### 魂は歌い、肉体は舞う

今回の演奏会のプログラムはドヴォルジャークの2作品を最初と最後に配し、林光とバルトーク作品が間を埋めるという構成になっています。これらの作曲家に共通しているのは、ドイツ・オーストリアの芸術音楽の伝統をバック・ボーンとしながらも、民謡や民俗舞曲といった、人々が日々の暮らしのなかで育み、伝承していった各民族に固有の音楽に大きな価値を見出している点です。

ここで、各作品について簡単に紹介したいと思います。

### ドヴォルジャーク:セレナード 二短調 作品44

先述の通り、この作品の楽器編成は木管楽器を中心としており、フルート、トランペット、ヴァイオリンといった高音の華やかな音色の楽器をあえて除いた響きが、大きな特徴です。作曲されたのは1878年、スラヴ舞曲集 が世に出される直前の時期で、まさに大家への道の第一歩を踏み出そうとしていた頃の作品です。この作品には、作曲家の祖国チェコの民俗舞曲が取り入れられており、ゆっくりとしたワルツに近いソウセツカー、2拍子と3拍子のリズムが絢をなす快活なフリアント、速いテンポで飛び跳ねるスコチナーなどが登場します。

### 林光:ヴィオラ協奏曲『悲歌』

1995年MCOの委嘱により初演され、深い感動を集めた『悲歌』の待望の再演です。今回、ヴィオラのソロを務めるのは、MCOメンバーの店村眞積。指揮者リッカルド・ムーティに認められ1977年から84年までフィレンツェ市立歌劇場オーケストラの首席ヴィオラ奏者を務め、2001年にはNHK交響楽団のソロ・ヴィオリストという同楽団が特別に用意したポストに迎え入れられている、まさに、わが国を代表するヴィオラ奏者のひとりです。

さて、この作品には具体的な形で何か特定の民族的な要素が採用されているということはありません。しかし、林光ほどわが国の作曲家のなかで、自身をとりまく社会状況や人間の有り様を鋭敏にキャッチし、音楽に交錯させていった人はいないでしょう。この作品を林は「歌」と呼んでいます。きっとその「歌」というのは、たとえば母親が歌う「子守歌」や愛する人を失ったときに歌われる「弔い歌」のように、生活のなかの祈りとともにある歌のことなのではないでしょうか。

### バルトーク:ルーマニア民俗舞曲集

自国ハンガリーの民謡研究を通して、その力強い表現力とダイナミックな変化、美しい構造に魅入られたバルトークは、ハンガリー以外の民謡にも、等しい愛情と細心の注意をもって目を向けていきました。タイトルからもお分かりの通り、1917年に完成したルーマニア民俗舞曲集 は、そうしたバルトークのフィールド・ワークの輝かしい成果のひとつです。「杖を用いる踊り」、「足踏み踊り」、「ブチュムの踊り」、「ルーマニア風ポルカ舞曲」、「急速な踊り」という6つの小曲から構成されてい



店村真積

ます。( \*ちらし等では バルトーク:ルーマニア舞曲 Sz.47a とお伝えしておりましたが、バルトーク:ルーマニア民俗舞曲集 Sz.68 に変更させていただきます。どうかご了承ください。)

**ドヴォルジャーク(林光編曲):弦楽四重奏曲 第12番『アメリカ』(弦楽合奏版)**

ドヴォルジャーク作品のなかでも、とくに広く親しまれている作品のひとつが、1893年に作曲された弦楽四重奏曲『アメリカ』です。ドヴォルジャークはアメリカに渡り、当時チェコ民族と同じように虐げられている民族であった黒人の民謡や靈歌、またそれ以上に悲惨な目にあい、滅亡の危機にさらされていた原住民インディアンの音楽などに深い共感を抱いたそうです。そして、祖国へのノスタルジックな気分とも重ねあわせながら、これらの音楽を吸収してこの作品は一気に書き上げられました。

なお、今回の演奏会では、MCOならではの精緻な弦楽アンサンブルのために、林光氏に弦楽合奏版への編曲をお願いしました。弦楽四重奏の表現効果の点で、もっとも理想的な状態にまで到達しているとも評される本作品に、林の編曲とMCOの演奏により、新しい光が投げかけられようとしています。世界でもほとんど先例のない弦楽合奏版『アメリカ』の演奏にどうぞご期待ください。

ドヴォルジャーク、バルトーク、そして林光 彼らは、大地に根ざし、労働に明け暮れ、子を産み育てることで自らの血を繋いでゆく、そのような素朴な人々の姿の中に真実を見出そうとしました。生きることの価値は、たとえば歴史に名を残すような偉業を為せたか否かというのではなく、何か天より与えられた役割を果たしつつ、その命を精一杯まっとうするということなのかもしれません。

そんな人間の、押さえ切れない心の動きが内奥から溢れ出て歌が生まれ、ほとばしる生命のエネルギーが肉体を鼓舞し舞踊が生まれるのです。この演奏会は、そうした失われつつある純粋な歌と舞いを取り戻すための嘗でもあるように思えます。

《中村》

**「音楽は変化し、未知の、あるべき姿へと向かって旅して行きます。」**

林光氏へのインタビュー

- 林さんは、1990年の第1回定期演奏会以来、今日にいたるまで継続的に水戸室内管弦楽団の演奏会に接して下さっています。水戸室内管弦楽団のこれまでのおよそ15年間の歩みについてどのような感想をおもちですか？

林光:水戸室内管弦楽団は、はじめ、どこからともなく集まってきては、また去ってゆく、いわば《まれびと》の集団であった。いつのころからか、気がついたら《帰って》きて、しばらくするとまた何処かへでかけてゆく存在に変わっていた。根づく、というのはこういうことだと思う。

わたし個人としては、スコアを書く機会をなんとか与えられ、それも創作だけではなく、同時代の作曲家が果たすべき役割のひとつと考えてきた、巨匠の作品のリライトの作業にも参加できたことは、大きなよこびです。

- 今回は、林さんに ドヴォルジャーク:弦楽四重奏曲 第12番『アメリカ』の弦楽合奏版への編曲をお願いしました。林さんにとって、この作品の魅力はどのようなところにありますか？また編曲されるにあたり、どのような音楽表現を念頭に置かれましたか？

林: アメリカ は若い頃から好きな曲でした。ドヴォルジャークは、《中心》ウィーンのきちんとした語法をめざし、けれどもいっぽうで父祖の地ボヘミアの、もっと自由な土くさい音楽にうごかされ、彼の音楽は両者が重なったり分裂したりさまざまです。

アメリカ が、主題のメロディーばかりでなく、細部の音のうごかしかたにおいても、土くさいほうへと傾斜していることを、編曲の作業をとおしてあらためて感じたのでした。

- 悲歌 は、95年の初演以来、お客様からも再演の声の高かった作品です。その後、神奈川フィルやアンサンブル金沢やN響でも演奏され、そして今回水戸に里帰りしてきます。初演時は林さんご自身が指揮をされたのですが、今回は指揮者なしでの演奏です。今回の演奏会で水戸室内管弦楽団にどのような演奏を期待され

ますか？

林:作曲=作品は、くりかえし演奏されることによって育って行きます。楽譜が書きかえられるわけでもないのに、音楽は変化し、未知の、あるべき姿へと向かって旅して行きます。というより、そのように育って行く作品が書けたらと、わたしはいつもねがっています。

この曲はもともと指揮者なしの約束でした。こんどはじめて、本来のかたちでおこなわれる店村さんとオーケストラの皆さんの演奏は、この曲の、まだ知られなかった姿を写し出してくださるのではないかと、たのしみに待っています。

- 林さんは 悲歌 の作品ノートの中で、「あとから考えれば、そのような音楽を書いたこと背景に、作曲と同時進行していた二つの出来事、阪神地方を襲った大地震と、狂信的な宗教集団による計画的な殺人がもたらした、大勢の死者たちの姿がなかったとは言えない。」と書かれています。現在のわたしたちをとりまく状況を見回すと、世の中はますます混迷し、人々の「悲しみ」は一層大きなものとなっているのではないかと思います。こうした状況を打破するために、芸術がどのような役割を果たせるのかということをお考えになることはありますか？

林: 悲歌 を書いたあと9・11がありました。原子爆弾の出現よりも鋭く、世界史の転機をもたらす出来事ももしれない。悲しみをなくさめる芸術をつくる、というような考えかたそのものを見直さなければならぬでしょう。それでも、過去の音楽によって人びとがなくさめられるように、新しい芸術もそのようなちからを持ちうることはあると、思います。

- どうもありがとうございました。

(協力:林光事務所)

《中村》



写真左から；  
畑中良輔、片岡啓子  
小畑朱美、米澤 傑  
牧野正人、谷池重紬子

## 豪華絢爛！イタリア・オペラの宝石箱が目の前に！ 10 / 10(日)オペラの花束をあなたへXVI

日本音楽界の重鎮であり、水戸芸術館音楽部門の芸術総監督を務める畑中良輔がプロデュースする「オペラの花束をあなたへ」シリーズ。名作オペラの聴きどころを、楽しいお話と小気味良い演出をまじえ、当代最高の歌手たちによりお贈りするこの企画は、オペラ・ハウスのない水戸の地に本物のオペラの味わいを届けるコンサートとして高い人気を誇っています。

第16回目を迎える今回は、「イタリア・オペラの宝石箱 永遠に輝く宝石たち」と題し、モンテヴェルディからプッチーニまで、数多く残されているイタリア・オペラの名作の中から、とっておきの名アリアの数々をお届けします。

### 異色のテノール歌手・米澤傑

「おそらく知らない方が多いと思いますが、驚嘆する美声！特に高音のすばらしさは筆舌に尽かせません。日本最高のテノールでしょう」と畑中良輔氏も絶賛するテノール歌手、米澤傑さんの登場に、まずはご注目ください。カルメンのホセ役や蝶々夫人のピンカートン役を得意とするリリコ・スピントで、歌った先の劇場では必ずやブラボアの嵐を呼び起こす米澤さんは、将来のオペラ界、音楽界を背負って立つ逸材として注目を集めつつありますが・・・実は、本職はお医者さんなのです。現在、鹿児島大学病理学教授を勤め、癌の病理学的研究、臨床病理検査、一般の診察などを日々の仕事とされています。

小さい頃から歌うことが好きで、鹿児島大学医学部に進んでからも音楽を学び続けた米澤さん。鹿児島で第九のオーディションに合格し、指揮者の井上道義さんに認められたのがきっかけで表舞台上に登場するようになりました。水戸での素晴らしい蝶々夫人の記憶も新しい世界的なソプラノ歌手・松本美和子さんのレッスンを受けながら、現在も医者と歌手の2つの仕事を両立させているとのこと。

そんな米澤さんの素晴らしい歌声を、音楽評論家の黒田恭一さんは次のように評しています。

『米澤傑のきかせてくれる高い声は、さながら情熱そのものが光り輝いて直進してくるかのよう感じられて、ききてをどきどきさせずにおかない。しかし、その高い声の伝えうる情熱とて、完璧にコ

ントロールされた中音域の強靭さがあることである。テノールのうたいあげる情熱がいに純粹で、ひたむきで、熱いかを実感したかったら、米澤傑の声と歌唱に真摯に耳をすますにかぎる。まさにこれがテノールである。天から授かった珠玉の喉を磨きに磨いて、その声を本物のテノールのものにした米澤傑のうたうのをきくききての感じるのは、一級のテノールをきいたときだけに味わえる、あの至福の瞬間である。』

テノールが好きな人ならば誰もが愛する名アリア“誰も寝てはならぬ”(トゥーランドット)を、米澤さんの、その歌声で聴ける日がまもなくやってきます。

### 充実のキャスト陣

ソプラノの片岡啓子さんと言えば、ナブッコ運営の力 アイダ といったヴェルディのオペラの重要な役での圧倒的な名唱を思い起こす方も多いことでしょう。国立音楽大学を卒業し、1974年日伊音楽コンクールに受賞。76年イタリア・ミラノに留学後、ミラノ・スカラ座歌手養成所など主にイタリアで研鑽を積み、79年ヴェルディ国際音楽コンクール第3位(1位なし)、81年トレヴィーゾ国際コンクール第1位など、イタリアで輝かしい経歴を積み上げます。その後、パルマ歌劇場などヨーロッパ各地の劇場、および二期会、藤原歌劇団など国内でのオペラ上演で、ドラマチック・ソプラノ役に欠かすことの出来ないプリマドンナとして、常に第一線で活躍。「ヴォーチェ・ヴェルディアーナ」(ヴェルディ歌いの声)と評されるベルカントの美声が、水戸芸術館コンサートホールATMに響き渡るその日を、楽しみに待ちましょう。片岡さんの“勝つて帰れ”(アイダ)は必聴ですよ！

メゾ・ソプラノの小畑朱美さんは、現在、人気・実力ともに急上昇中の注目歌手です。東京芸術大学卒業、同大学院修了後、第3回奏楽堂日本歌曲コンクールで第1位に受賞。その後、1992年よりイタリア国立ヴェルディ音楽院に留学。やはり歌の国イタリアで薫陶を受けています。留学中のイタリアでは、ロッシーニのセビリヤの理髪師や ミサ・ソレムニスなどを歌い、「高度なテクニックと力強い高音を持ち、表現力豊かな歌手」と

評されました。96年に帰国。二期会、東京室内歌劇場、新国立劇場などの主要な公演に欠かせぬメゾ・ソプラノとして、急速にその地位を築いています。今回の「オペラの花束」では、モンテヴェルディからマスカーニまで、自慢の幅広いレパートリーを披露してくれる予定です。

バリトンは、イタリア人顔負けの美声と声量の持ち主、牧野正人さんです。国立音楽大学卒業、同大学院修了後、88年からはミラノに留学し、パヴィア国際音楽コンクール第2位、F・P・ネリア国際音楽コンクール第1位に受賞します。帰国後の藤原歌劇団での活躍は「すごい」の一言。椿姫のジェルモン役、カルメンのエスカミーリョ役、ドン・ジョヴァンニの題名役、セビリヤの理髪師のフィガロ役、アイダのアモナスロ役などで主要な公演に多数出演のほか、共演した歌手もバルツァ、ヴァレンティン=テッラーニ、カレーラス、サバッチェーニ、カプッチェリ、ブルゾン、ライモンディ、タディといった世界トップクラスの顔ぶれがズラリと並ぶのですから驚きです。さて、今回の注目は何と言っても、コンサートのオープニングを飾る“私は町のなんでも屋”(セビリヤの理髪師)。「この曲において、これ以上の人は世界中探しても見当たらない!」と畑中良輔氏も熱く語る牧野さんのフィガロが、どんな風にステージに現れるのか、ご期待ください。

そして、「オペラの花束をあなたへ」になくはない充実したピアノ伴奏を受け持つのが谷池重紬子さんです。分厚いオーケストラ・パートをピアノ1台、10本の指で表現しなければならない大変重要な持ち場ですが、谷池さんは難なく弾きこなしてしまいます。「歌手や指揮者以上にオペラ全体を知っている」と周囲からの信頼も厚い谷池さんのピアノに耳をすますと、弦楽器の輝かしい旋律、オーボエの感傷的な節回し、トゥッティの壮大な響きなど、フル・オーケストラの多彩なサウンドが見事にピアノ1台で表現されていることに気づきます。今回のコンサートでは、ピアノの豊かな表現力にもぜひご注目ください。

《関根》



#### ロジェ・ムラロのCD

左から;

メシアン:ピアノ独奏曲全集 [ ACCORD 461 907-2 ]\*

ムソルグスキー:組曲 展覧会の絵 ほか

[ ACCORD 472 592-2 ]\*

ラヴェル:ピアノ独奏曲集 [ ACCORD 476 094-1 ]\*

ショパン:ポロネーズ [ ACCORD 465 383-2 ]

\*今回のリサイタルでの演奏曲が入っています。

## 鋭い打鍵が埋もれた日常を引き裂き、水晶のごとき音塊が空間に放たれる

10 / 16 [ 土 ] ロジェ・ムラロ ピアノ・リサイタル

テクニックの素晴らしさはもちろん、感性だけではないとつともなく知的な音楽を、ロジェ・ムラロの演奏から感じます。美しさの中にある力強さとすがすがしいまでの透明感は、聴いていて本当に気持ちがいい。そんなムラロのリサイタルが、10月16日[土]に開催されます。

お洒落なラヴェルと色鮮やかなムソルグスキー

リサイタルの幕開けは、モリス・ラヴェル(1875-1937)の小品、..... 風に (シャブリエ風に / ポロディン風に)です。ラヴェルが38歳のときの作品で、イタリアの作曲家・ピアニスト・指揮者であった友人、アルフレード・カゼッラの勧めで作曲され、初演は、パリのサル・プレイエルにてカゼッラによって行われました。当時、ラヴェルが親しみを持っていた2人の作曲家、シャブリエとポロディンの作品スタイルの模倣を試みたもので、..... 風に という曲名の下にそれぞれ「ポロディン」「エマニュエル・シャブリエ」の名前が示されていることから、ポロディン風に、シャブリエ風に と呼ばれることが多いこの作品、繊細で透明感のあるムラロの演奏で、お洒落にコンサートが始まります。

「ムソルグスキーと言えば、展覧会の絵」と思われる方も、少なくないのではないでしょうか。ラヴェルに続くのは、それほどまでに名曲の、モデスト・ペトロヴィチ・ムソルグスキー(1839-1881)の組曲 展覧会の絵。この組曲は、「絵」にちなんだ10曲の小品と前奏、そして間奏の役割を果たすお馴染みのあのメロディー、「プロムナード」からできており、19世紀ロシアが生んだ最も独創的なピアノ曲なのです。また、この曲は、異常なほどに強い表現を持っており、デッサンもしっかりしているため、多くの作曲家たちに管弦楽編曲への興味を抱かせました。編曲の数は少なくとも6つはありますが、現在、最も多く取り上げられているのはラヴェルによる編曲のもので、力強さとまばゆいばかりの色彩効果を併せ持つ作品、そんな 展覧会の絵 は、「詩人の心を持つ、鍵盤アスリート」と評されることもあるムラロに、ぴったりな曲なのではないでしょうか。ムラロが音で描く、ダイナミックで色彩豊かな 展覧会の絵 を、どうぞお楽しみください。

メシアンとムラロ

パリ音楽院で、オリヴィエ・メシアン(1908-1992)の伴侶であったピアニスト、イヴォンヌ・ロリオに学んだムラロ。現在、メシアン演奏における第一人者と言われています。ムラロは、ロリオの教えを受けただけでなく、メシアンともとても密接な関係にありました。以下のムラロの言葉を見てもお分かりの通り、ムラロはメシアンとたくさんの時間を共にし、メシアンの生活までも目の当たりにしてきました。自分の演奏する作品の作曲家本人から生の声を聴き、同じ空気を吸い、同じ景色を見る 演奏家にとって、とても幸せな出来事の一つではないでしょうか。ムラロの研ぎ澄まされた音楽には、メシアンからムラロへの、また、ムラロからメシアンへの様々な思いが詰まっているように感じます。

『メシアンと私は、何度もいっしょに国際的な音楽祭に行ったりしました。毎年夏になると、ドーフィネ・アルプス地方のプティシエにある彼の別荘で何週間か過ごしたりしました。仕事をしている姿を見るよりも、生活している様子を目にする方が、学ぶことははるかにたくさんあるものですね。こうやって私はメシアンとその作品について多くのことを学んだのです。今でも私は、毎年夏にプティシエに行きます。あの山々を見て、彼の音楽のなかで歌を聞かせる鳥たちの声を聞くと、「ああ、何もかもがメシアンだ」と感じますね。』(2001年6月号 / フランス レベルトワール誌 インタビュー記事より)

また、ムラロは、今回のリサイタルでの演奏曲、幼子イエスに注ぐ20のまなざし について、次のように言っています。

『はじめて 幼子イエスに注ぐ20のまなざし の全曲を聴いたのは、モンペリエでのイヴォンヌ・ロリオの演奏でした。メシアンも来ていて、ひざの上に楽譜を広げていましたよ。私はといえば、あまりの複雑さに身もすくむ思いでした。技術的にも難し過ぎて、とても弾けるものではない、と。メシアンは穏やかに私に言ってくれました。

「いやいや、心配しないでいいよ。そんなに難しくはないんだ。君も弾いてみなさい。」そこからあとはもう躊躇しませんでした。』(2001年6月号 / フランス レベルトワール誌 インタビュー記事より)

そしてムラロは、1988年パリで 幼子イエスに注ぐ20のまなざし を演奏し、メシアン本人より賞賛のメッセージを与えられました。

「ロジェ、この難曲を崇高なまでに完璧な演奏をありがとう。華麗な演奏技術、熟練、音色、音楽性に心から神に感謝します。」

今回の来日で、ムラロの弾くメシアン作品、それも 幼子イエスに注ぐ20のまなざし が聴けるのは水戸芸術館だけ!!初来日のロジェ・ムラロのリサイタル、お聴き逃しなく。 《馬場》





「茨城の名手・名歌手たち 第15回」出演者

写真左から;佐藤美乃里(ピアノ)、坂紀乃(ピアノ)、沢田尚美(ピアノ)、井上修(ピアノ)、三巻明子(パイプオルガン)、木下通子(チェロ)、川又明日香(ヴァイオリン)

## 「戦後の歌曲」第2回は、團伊玖磨、大中恩の名作歌曲をクローズアップ 11 / 21 (日) 畑中良輔の日本のうた セミナー第4期

4年をかけて開催している当セミナーも最終期「戦後の歌曲」を迎え、ますます充実した時間を受講生と聴講の皆様とともに過ごしております。11月21日に行われる「戦後の歌曲」第2回では、團伊玖磨と大中恩の歌曲に焦点を当てます。

戦後の日本の作曲界に大きな足跡を残した團伊玖磨は、2001年5月17日に惜しまれつつ死去しました。享年77歳。死の前年より、團伊玖磨の60年に及ぶ創作活動を俯瞰する「DAN YEAR 2000」が開催され、オペラ、交響楽、吹奏楽、室内楽、合唱、歌曲、映画の全てのジャンルの主要作品を取り上げる36公演を行ったばかりでした。

團伊玖磨と同世代で日本歌曲の世界において傑出した仕事を遺した中田喜直(1923～2000)が歌曲と合唱曲にその創作の重点を置いたのに対し、團伊玖磨は楽曲の形式や構造といったものをはじめから意識し、交響曲や室内楽、オペラなどに傑作を残しました。その姿勢は、歌曲の

創作にもみられます。好きな詩に曲をつけたというような単体の歌曲がほとんどなく、ひとりの詩人にしぼって歌曲集を構想し、中の1曲1曲が器楽曲の楽章のように相互に対比、照射しあえる構造になっているのです。セミナーでは、北原白秋の5篇の詩につけた歌曲集「五つの断章」(1946年作曲)と、北山冬一郎の5篇の詩につけた歌曲集「わがうた」(1947年作曲)が研究曲として取り上げられますが、いつにもまして、歌曲集の全体をいかに把握した上で表現するかが鍵になりそうです。

一方、大中恩(1924～)は中田喜直と似た道を歩んでいる作曲家と言えるでしょう。1955年に中田喜直、磯部徹らと斬新な感覚の子供の歌の創作をめざす「るばの会」を結成し、以来子供のための音楽の創作と発展がライフワークとなりました。また、歌曲や合唱曲の作曲も数多く、声楽とのかかわりを根幹に創作を続けている作曲家

です。セミナーで取り上げられる歌曲集「五つの抒情歌」のうち、3曲を初演している畑中良輔氏は、その魅力を以下のように述べています。「“歌うは愛するひとのわざ”といった、アウグスチヌスの言葉が、これらの大中声楽作品にぴったりと寄り添って、何より強い実感を私に与える。歌を愛することが、人を愛することにつながっていくその真実の輝きが、人の心をいっぱいにしているのだろう」。

当セミナーのお楽しみ、ゲスト歌手にはバリトンの松井康司さんが登場。その燦銀のような歌声と味わい深い表現で、水戸でも着実にファンを増やして続けています。当日は、水戸が生んだ日本歌曲の名伴奏者・田中直子さんのピアノで、研究曲のほか、畑中良輔氏の作詞による大中恩「サッチャンの家」も歌われる予定です。どうぞお楽しみに。

《関根》

## 7人の名手たちによるガラ・コンサート 10 / 23 [土] 茨城の名手・名歌手たち第15回 司会:畑中良輔

茨城県に関わりのある優れた演奏家を発掘し紹介するため、水戸芸術館開館以来、毎年継続している「茨城の名手・名歌手たち」が、15回目を迎えました。水戸芸術館と同じだけ年(回)を重ねているこの企画、これまでたくさんの方の「名手・名歌手たち」をご紹介してきました。第1回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位の小泉恵子さん(ソプラノ)、ロン＝ティボー国際音楽コンクール第5位の大崎結真さん(ピアノ)、第66回日本音楽コンクール第2位(1位なし)の清水良一さん(バリトン)など、現在、国内外の大舞台上で活躍している音楽家も、ここから巣立っています。「名手・名歌手たち」にご出演いただいた方の中からは、「クリスマス・コンサート」、「プロムナード・コンサート ヴァリエーションズ」、「市民オペラ」、「水戸の街に響け! 300人の《第九》」など、水戸芸術館の他の企画にご出演いただくこともあり、活躍の舞台は「名手・名歌手たち」だけに留まりません。また、「茨城の演奏家による演奏会企画」にも積極的にご応募いただき、見事審査を通過してリサイタルを開

催している方々の中にも、「名手・名歌手たち」出身者はどんどん増えてきています。9月にマリンパ&パーカッション・リサイタルを行った五十嵐美香さんや、今月9日にピアノ・デュオ・リサイタルを行う中村真由美さん、佳代さんなども、皆さん「名手・名歌手たち」の出身者なのです。

さて、5月29日[土]に行われたオーディション(応募総数:52)に合格し、10月23日の演奏会に出演するのは、ピアノ4名、パイプオルガン1名、弦楽器2名の7名の名手たち。

まずは、ピアノの4名。水戸第三高等学校音楽科を経て、今年、茨城県新人演奏会に出演した佐藤美乃里さんは、ラヴェルの「鏡」の中から2曲を演奏します。あまり聴く機会の多くない作品、シマノフスキの「仮面劇」より2曲を聴かせてくれるのは、東京音楽大学大学院に在学中の坂紀乃さん。オーディションではシューマンの幻想曲を鮮やかに弾きあげた沢田尚美さんは、リストの「パレード」。今回唯一の男性出演者の井上修さんは、4月の「ファジル・サイ」の演奏も記憶に新しい、バツハ(ブ

ゾーニ編曲)の「シャコンヌ」を演奏します。あの難曲をどのように聴かせてくれるか、ご期待ください。

そして、パイプオルガンの三巻明子さんは、水戸芸術館「市民のためのオルガン講座」、「名手・名歌手たち 第11回」の出身者です。フランクの名曲、コラール第1番がエントランスホールにロマンティックに鳴り響くことでしょう。

弦楽器の2名は、いずれも高校生。チェロの木下通子さんは、東京芸術大学附属高等学校に在学中。ポップスのチェロ協奏曲をフレッシュに演奏します。「名手・名歌手たち 第12回」、「プロムナード・コンサート ヴァリエーションズ」に出演した当時はまだ中学生だったヴァイオリンの川又明日香さんは、現在、桐朋学園女子高等学校の2年生になり、一皮も二皮もむけた音楽性でプロコフィエフのヴァイオリン協奏曲に挑戦します。

畑中良輔の司会によりガラ・コンサート形式で進めるこの演奏会。これまでの、そして、これからの「茨城の名手・名歌手たち」をどうぞ応援してください。《馬場》



中村真由美  
中村佳代

## SELF

## PORTRAIT

水戸出身の姉妹による  
息の合ったピアノ・デュオ

### 10 / 9(土) 中村真由美 中村佳代 ピアノ・デュオ ・リサイタル

「2人で一緒にピアノを弾くのが楽しい!」初めて私達がそう感じたのは小学生のときでした。その頃、バルトークの『ミクロコスモス』を勉強していて、その中に1曲だけ2台ピアノで弾く曲があり、それが楽しくて、よく2人で連弾で弾いていました。その後はそれぞれの練習で忙しく、デュオのことを考える余裕がありませんでした。大学院、留学での勉強の中で再びピアノ・デュオの世界に触れ、姉妹でデュオを、という強い思いから、ソロの他にデュオの活動も始めました。

今回7年ぶりに芸術館でピアノ・デュオ・リサイタルを開く機会に恵まれ、演奏したい曲はたくさん

ありましたが、特に私達の思い入れの強い曲を選んでみました。今回のプログラムの中のブラームス、ラヴェル、ラフマニノフの3曲は、管弦楽版もありますが、2台ピアノならではの緻密さ、オーケストラに負けない音色の変化・迫力を皆様にお届けできればと思っています。ラヴェルの『スペイン狂詩曲』はピアノ連弾でも弾ける楽譜となっていますが、2台のピアノで演奏することで、この曲の持つ魅力をより効果的に表現できるよう、部分的に私達自身でパート分けをしています。アレンスキーの『組曲 第4番』はCDで聴いてどうしても演奏したいと思い、楽譜を国内外で探しましたが絶版になっていて手に入らず、半ば諦めていたところ、“ピアノ・デュオ作品事典”の著者である松永晴紀氏が楽譜をお持ちで、お借りすることができました。念願がなつて初めて楽譜を目にしたときの嬉しさを今でもよく覚えています。松永氏は今回のプログラムの解説を快諾下さり、またピアノ・デュオ用編曲についての書き下ろしも寄稿下さいましたので、そちらもお楽しみに。ラフマニノフの

交響的舞曲 は、前回のリサイタル後、次の芸術館のステージでは是非この曲を弾きたい、とっていた曲です。ラフマニノフの2台ピアノの作品では、組曲第1番、第2番がよく演奏されますが、交響的舞曲 はラフマニノフの最後の作品で、よりロシア的な重厚さと哀愁をあわせ持つ30分を超える大作です。ラストの圧倒的な迫力で今回のステージを締めくくります。

私達が感じるピアノ・デュオの魅力は、ソロでは味わえないアンサンブルの楽しさ、音楽的な広がり、幅広い音色の変化などです。2人で音楽を作っていくという過程は非常に楽しく、日々新たな発見があります。時にはあまり言いたいことを言い過ぎて険悪な雰囲気(?)になることもありますが、言葉にしなくてもお互いの表現したいことが分かり合えるのも姉妹だからでしょうか。ピアノ・デュオの演奏会はまだまだそれ程多くはありませんが、1人でも多くの人にピアノ・デュオの魅力を感じていただければこの上ない幸せです。

中村 真由美

## 最近の公演から

JUNE / JULY  
AUGUST



1



2



3

1~3. ベリオオの肖像

ベリオオの肖像(6月5日)

昨年の5月に没したイタリアの作曲家ルチアーノ・ベリオオを特集する演奏会を行なった。プレ上演した電子音楽作品『顔』は、声の達人バーベリアンの意味を付されず、肉感的に、生々しく発せられる声が、電子音響と対置させられた作品である。第1部の講演会では、最初に白石美雪さんにベリオオ作品の全般的な解説をしていただいた。続いて英文学者の柳瀬尚紀さんにご登場いただき、ベリオオが多大な影響を受けた文学者ジョイス、ベケットの創作についてお話しいただいた。ジョイスの『ユリシーズ』の翻訳にあたってどのように言葉を探しているのかなど、興味深い話が軽妙な語り口で紹介された。第2部の演奏会では、初期の作品から、世界する直前の作品まで、各年代を網羅するプログラムを用意した。出演はアルディッチィ弦楽四重奏団、木ノ脇道元(フルート)、菊地秀夫(クラリネット)、畠中恵子(ソプラノ)、木村茉莉(ハーブ)、中川賢一(指揮、ピアノ)。この日のプログラムで印象的であったのは、死の前年に書かれた『チェロのためのセクエンツァ XIV』(2002)。演奏はこの曲を献呈されたロハン・デ・サラム本人。60

年代までの作品が、前衛的な緊張感に支配されているのに対し、この作品では立て続けに繰り出される特殊奏法の中に、大地に根ざしたかのような奔放なエネルギーが感じられた。それは、ベリオオが長いトンネルをくぐりぬけて掴んだ音の喜びとも言えないだろうか。《中村》

アンケートから やや難解な曲もあったが、セクエンツァ シリーズがとても面白かった。特に セクエンツァ XIV は、チェロの楽器の可能性がこんなにもあるのかと思った。(水戸市:M.Y.さん) 白石さんの解説つきでベリオオ音楽の諸相にふれることができた。演奏も第一級のソリストを擁し、深みのある解釈で刺激的であった。はじめて聴く曲ばかりだが、極端に先鋭的というわけではなく、叙情性を有しているのが意外であった。(水戸市:T.M.さん) 第2部、楽しくてどきどきして、気持ちよかった!「人の声」というのは、どうしても“日常”をつれてきてしまうように思う。今からの帰り道の日常の音がどんなふう聞こえてくるかがたのしみだ!(無記名の方)



1



2



3



4



5



6



7



8

### 水戸室内管弦楽団第57回定期演奏会 (6月26、27日)

小澤征爾音楽顧問以外にもさまざまな名指揮者がMCOを指揮したが、準・メルクルくらい幸福な出会いを果たしたゲスト指揮者はまれかもしれない。指揮者はオーケストラの力を信じ、最大限の敬意を持って練習に臨む。MCOはその熱意と真摯な態度に全力で応える。初顔合わせならではの緊張感はあったが、それはこの「共同作業」を実りあるものとするために間違いなくプラスに働いた。準・メルクルとの共同作業を通じMCOはフル・オーケストラのようなスケール感あふれるサウンドを響かせていたが、その響きの奥に音楽の方向性をしっかりと定める「核」が常に存在していたように思う。ヴァーグナー、ハイdn、武満、シェーンベルクという多彩なプログラムも、指揮者とオーケストラの個性の融合をさまざまな角度から楽しむために有効だった。それにしてもマエストロは日本の文化の摂取に熱心で、水戸の歴史や、TVドラマのそれとは違う水戸光圀像などにも関心を寄せる。音楽園も見学し、歴史を隠し持ったこの街の空気をできるだけ摂取することに努めていた。知性的で穏やかな物腰に情熱を秘めたこのマエストロにまた再会できる日も、遠くはないだろう。なお、26日にはゲネプロを市内学生に公開し、約200人の熱心な学生が集まった。《矢澤》

アンケートから 近年まれな、とぎすまれた演奏会となった。ヴァーグナーも 時計 も、これほどすばらしい演奏はまず聴けないのではないかと。武満、シェーンベルクすべて、感動です( 銚田町:A.O.さん )  
新たなMCOを発見したようです。メルクルさんの指揮は非常にさわやかで、かつ深みのあるように思われた(水戸市:無記名の方) 初めて参りましたが、大きすぎず、よいホールです。メルクルさんの笑顔もすてきですが、それにも増して、楽団のみなさんののびのびした演奏がすばしかったです(東京都:Y.T.さん)

### 水戸室内管弦楽団第58回定期演奏会 (7月7日、8日、9日)

#### 子供のための音楽会(7月8日)

#### 水戸室内管弦楽団福岡演奏会(7月10日)

いきなり手前味噌で申し訳ありませんが、小澤征爾とMCOのゴールデンコンビにあっても、これほどまでにゴージャスな演奏会は滅多にないと感じられた第58回定期演奏会。まず、2群の細分化された弦楽合奏と、打楽器、鍵盤楽器がスリリングなアンサンブルを繰り広げるバルトークの 弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽。工藤重典、宮本文昭、ダーグ・エイセン、ラデク・パボラークといったスター・プレイヤーたちが織りなす妙技を存分に楽しめるモーツァルト 協奏交響曲(レヴィン復元版)。そして、小澤 & MCO が類まれなる厳しさと集中力をもって演奏した 交響曲第40番。全3曲、どっしりとした聴き応えがあったのではないのでしょうか。7月10日には、同じ内容で、アクロス福岡・福岡シンフォニーホール(客席数1867)での館外公演を行い、満場のお客から熱い拍手をいただきました。なお、水戸での3

日間の定期演奏会は、CDのためにライブ録音されました。発売の情報等が入り次第、vivo紙上でいち早くお知らせします。

7月8日には、茨城県武道館を会場に「子供のための音楽会」を開催、水戸市内の小中学生約3000人が鑑賞しました。定期演奏会の曲目の抜粋だけでなく、楽器紹介のコーナーを設置。各セクションが独自に工夫を凝らした演奏に、子供たちは興味津々で耳を傾けていました。《関根》  
アンケートから すごかった。1番最初の曲(バルトーク)の始まる前の一瞬、空気が止まるのを感じて心奪われました。今までに聴いたことのない音楽を聴きました。去年リハーサルを見に来て、ずっとまた聴けるのを楽しみにしていました。来てよかったです。(日立市:Y.S.さん) 「笛吹き」の超名手たちによる協奏交響曲、本当に素晴らしい。モーツァルトの快速さを一層増す、澄んだ、そして輝く演奏。(水戸市:Mさん) 最後のモーツァルトの40番、ズバリ圧倒的な名演でした。このような演奏を聞かせていただけたら、もうアンコールはいりません。(東茨城郡:H.I.さん)

### ファンファーレ・チョコリニア 東欧吹奏楽団 (8月27日)

キケンな一日でした。ファンファーレ・チョコリニア、当方の予測を超えてました。いや、最初はみなさんおとなしかったんです。もちろん昼食時はみんな肉また肉という感じで食いまくってましたし、エンタランスに飾られた巨大な鉄馬を「よお!」という感じでペンペン叩いてた(美術部門の皆様お許しを)時には「どうなることか」と思ったのですが、サウンド・チェック後は、舞台裏で静かにしていたのです。ところが演奏になったとたんどうでしょう、あの爆音は、あの疲れを知らぬ超絶技巧は!名曲を連発しながら、紅一点アウレリアが妖艶に観客を挑発し、トランペットのパンチのアドリブが炸裂し、ラドウのだみ声が響き渡ります。最初から興奮状態の満員の客席は、やがて謎のジブシー美女(水戸在住らしい)が客席から舞台上がって踊り出すとさらにヒートアップ、ついにIAG BARI でコンサートホールATMはじまって以来の客席総立ち踊りまくり状態! ついでにスピーカーが飛んで煙を吹いた! 終演後エンタランスに飛び出したメンバーたちはさらに20分に及ぶ演奏をくりひろげ、老若男女がエンタで踊り狂う桃源郷が出現したのでした。あれは夏の夜の夢だったのでしょか。《矢澤》 元気でした!(水戸市:E.I.さん) ひたすら自由で、思いのままに演ずる彼ら(彼女)に感謝!水戸に来てくれてありがとう(日立市:Y.S.さん) 体の細胞という細胞が踊り出しそうでした(水戸市:A.K.さん) 何度か演奏会に来たことがありますが、客席が総立ちになったのは初めて見ました(水戸市:無記名の方) 最高でした。鼻血が出るかと思いました。(中略)プレミア上映から当日のライブまで、このすばらしい時間を演出してくださったすべてのスタッフの皆さんに感謝します。もちろんバンドの皆さんにも。おっさん達、最高です。(常陸太田市:Aさん)  
\*この方はEメールで感想をお寄せくださいました。

## information

### チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000  
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

### 公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM水戸【FM水戸アップデート】火曜日18:15頃~15分ほど(不定期登場)。水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

水戸室内管弦楽団第59回定期演奏会演奏曲目一部変更のお知らせ  
ちらし、「NEWS」、インターネット等で既にお伝えしておりました「バルトーク:ルーマニア舞曲 Sz.47a」は、「バルトーク:ルーマニア民俗舞曲集 Sz.68」に変更させていただきます。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

### チケット・インフォメーション 10月10日(日)発売分

.....  
クリスマス・プレゼント・コンサート 2004  
12/23(木・祝)17:00開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000  
ニュー・イヤー・コンサート 2005  
1/5(水)18:00開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000  
栗コーダー カルテット コンサート  
2/6(日)14:00開演 料金(全席自由):一般¥1,500 子ども(3歳以上12歳以下)¥800  
武久源造 オルガン・リサイタル  
2/21(月)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000  
ニュー・イヤー・コンサート 2005には、10月7日(木)より友の会の先行電話予約があります。  
10月13日(水)発売分 .....  
水戸芸術館友の会 第38回鑑賞会 三船優子 ピアノ・リサイタル  
1/22(土)18:30開演  
料金(全席指定):[友の会会員]A席¥2,000 B席¥1,000  
[一般]A席¥3,000 B席¥2,000 学生(大学生以下)¥1,000  
三船優子 ピアノ・リサイタルには、10月9日(土)より友の会の先行電話予約があります。

### これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

中村真由美・佳代 デュオ 10/9(土) 自由席  
オペラの花束をあなたへ - 16 イタリア・オペラの宝石箱  
10/10(日) ...中央、左右  
ロジェ・ムラロ ピアノ・リサイタル  
10/16(土) ..中央、左右・裏  
茨城の名手・名歌手たち 第15回 10/23(土) ...自由席  
水戸室内管弦楽団第59回定期演奏会  
11/6(土) ...中央x、左右・裏  
11/7(日) ...中央、左右・裏  
畑中良輔の 日本のうた セミナー 第4期  
11/21(日) ...自由席 1/16(日) ...自由席  
水戸室内管弦楽団第60回定期演奏会  
12/3(金) ...完売 12/4(土) ...完売 12/5(日) ...完売  
9/16(木)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な10・11月のスケジュール

### コンサートホールATM

中村真由美・中村佳代 ピアノ・デュオ・リサイタル  
10/9(土)16:00開演 料金(全席自由):¥2,500  
オペラの花束をあなたへ - 16  
!燦! イタリア・オペラの宝石箱 !燦! - 永遠に輝く宝石たち -  
10/10(日)16:00開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000  
ロジェ・ムラロ ピアノ・リサイタル  
10/16(土)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500  
地域伝統芸能全国フェスティバルいばらき 関連事業  
宗次郎クラシカル・アンサンブル ~ オカリナ・エチュード ~  
10/22(金)19:00開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000  
茨城の名手・名歌手たち 第15回  
10/23(土)17:00開演 料金(全席自由):¥1,500  
水戸市立第一中学校日の縦祭合唱コンクール 10/27(水)11:30開演 入場無料  
水戸市立第二中学校清流祭合唱コンクール 10/30(土)13:00開演 入場無料  
水戸室内管弦楽団第59回定期演奏会  
11/6(土)18:30開演、11/7(日)14:00開演  
料金(全席指定):S席¥5,000 A席¥4,000 B席¥3,000  
畑中良輔の 日本のうた セミナー 第4期「戦後の歌曲」 第2回  
11/21(日)14:00開始 料金(全席自由):¥1,500

### エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート  
10/3(日)12:00 / 13:30 10/11(月・祝)12:00 / 13:30  
10/31(日)12:00 / 13:30  
11/13(土)13:30 / 15:00 11/20(土)13:30 / 15:00  
11/28(日)12:00 / 13:00  
「オルガン名曲ライブラリー」 フランス古典音楽  
11/27(土)13:30 / 15:00 出演:浅井美紀  
入場無料 演奏は各回20分程度です。

### ACM劇場

シリーズ・日本の劇作家たち2 森本 薫『怒濤』  
10/15(金)19:00開演、10/16(土)19:00開演、10/17(日)16:00開演、10/22(金)19:00開演、10/23(土)19:00開演、10/24(日)16:00開演  
料金(全席自由):一般¥2,500 学生¥1,500  
萬狂言水戸公演 『蚊相撲』『咲嘩』  
11/6(土)19:00開演 料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000  
水戸芸術館友の会第37回鑑賞会  
風間杜夫ひとり芝居三部作「カラオケマン・旅の空・一人」  
11/23(火)14:00開演 料金(全席指定):一般¥4,500 友の会会員¥3,000  
「見よ、飛行機の高く飛べるを」  
11/27(土)18:30開演、11/28(日)14:00開演  
料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500

### 現代美術センター

「カフェ・イン・水戸 2004」  
- Communicable Action for Everybody 2004 -  
8/8(日)~10/3(日)9:30~18:00(入場は17:30まで) 休館日:月曜日  
「まほちゃんち」  
10/23(土)~1/10(月・祝)9:30~18:00(入場は17:30まで) 休館日:月曜日  
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600  
中学生以下・65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

## 茨城の主な10・11月の演奏会

佐川文庫 TEL / 029(309)5020  
佐川文庫サロンコンサート カール・ライスター クラリネット・リサイタル  
10/16(土)18:00開演  
常陽藝文センター TEL / 029(231)6611  
山口泉恵 ピアノ・リサイタル 10/2(土)14:30開演  
(問)山口 TEL / 0299(22)3483  
GONTITI 地球一番快適コンサート 10/24(日)18:00開演  
(問)EVANS TEL / 029(251)6665(13:00~)  
水戸市民会館 TEL / 029(224)7521  
第30回 芸大同声会茨城支部水戸演奏会 10/31(日)14:00開演  
(問)東京芸術大学音楽学部 同声会茨城支部 TEL / 029(276)0327  
コンセル・ムジカ第25回演奏会 11/23(火)14:00開演  
(問)コンセル・ムジカ TEL / 029(305)1650  
スペースの都合で水戸市内の演奏会に絞らせていただきました。ご了承ください。

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴオ】 2004年9月発行 第102号  
編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp]  
編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):小林聡子 関根哲也 中崎美智代 中村 晃  
馬場千恵 矢澤孝樹(編集長)

DTP / office west  
印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...年末に大イベントの乱れ打ち!  
OZAWA&MCO、第9、クリスマス・コンサート...